

交通安全対策について

(質問) 交通安全対策では、ゾーン30プラスのように生活道路の制限速度を30キロに規制し、ハンブやシケインで物理的に速度を抑制する方法がある。交差点の危険箇所では、歩行者の安全を確保する防護柵設置などの対策が考えられる。本市の交通事故状況と交差点の安全対策は。

(答弁) 令和7年の交通事故は5,880件のうち人身事故249件、人身事故のうち5件に1件は交差点で発生している。市道のうち、歩道のある信号交差点で、小学校の通学路にある交差点を50か所選出し安全対策の工事を行った。

その他の質問 ○市営住宅



健康寿命延伸への取り組みの推進

(質問) より多くの市民が健康づくりに参加できるように健康マイレージ事業の拡充を求め、現状と課題、周知の強化、企業等も含めた幅広い拡大、LINE機能の改善、ポイント統合とデジタル地域通貨導入の可能性について伺う。

(答弁) 対象者やポイントの付与・申請方法を拡充するが、周知方法に工夫が必要である。令和5年度から市公式LINEからも参加でき市民の利便性の向上を図っている。地域通貨導入に関しては、維持管理コストの確保について慎重な検討が必要である。

その他の質問 ○こどもの居場所



共同親権について

(質問) 離婚後、父母が共同で親権をもつ「共同親権」が可能となる。子の引っ越し、進学、医療などの重要事項を父母共同で決定する制度。共同で子育てする共同監護とは別の概念である。DV・虐待被害者は逃げにくくなる懸念が強い。制度の正確な情報提供、またDV・虐待被害者とこどもの安全確保や安心して相談できる体制づくり、窓口職員の専門研修の充実を求める。

(答弁) 女性相談支援員を2名配置しており、女性弁護士の無料相談も行っている。研修など相談のスキル向上に努める。

その他の質問 ○多文化共生社会



障がい福祉について

(質問) ①障害福祉サービスを受けている市民の人数は。②地域生活支援事業の実施状況は。③補装具について伺う。

(答弁) ①障害者手帳の所持者数は1万人超、令和6年度の障害福祉サービスの延べ利用者数は約4万7千人。②障害者総合支援法に基づき必須事業と任意事業を実施。相談支援事業をはじめ社会参加促進事業、福祉ホームの運営補助などを実施。③令和8年1月末で購入271件、修理152件。社会参加を進める制度として、速やかな支給に取り組んでいく。

その他の質問 ○鈴が谷運動広場



学校統合に伴う準備について

(質問) 廃校準備で、一部の児童から学校から本がなくなって読めないという声があり、一時的に運動場が使えないなど、教育環境が損なわれてはいけないと考える。天栄小学校のスクールバスについて、十分な安全確保が必要であると考えるが、安全確認の方法などについて伺う。

(答弁) 運行当初の一定期間、添乗員が乗車し、乗降場所で待つ児童全員の乗車確認、着席後のシートベルトの着用確認など、これらの項目をチェックシートにまとめ、乗車時に内容確認を行うよう周知徹底していく。

その他の質問 ○公共交通



三層分離モデルの転換可能性について

(質問) 情報セキュリティ対策として三層分離の中でもαモデルが長く採用されてきたが、クラウド活用の拡大に伴い、より柔軟なβモデルなども示されている。本市のαモデルの現状と評価、今後のモデル転換の可能性を問う。

(答弁) 総務省方針に基づき、三層分離を実施し、住民情報保護を図っている。従前より利便性が低下した面もあるが、サイバー攻撃のリスクを踏まえ、当面はαモデルを継続し、将来のモデル転換可能性も含め検討していく。

その他の質問 ○市境地域における公害
○技術監理部新設

